

眼内レンズ縫着術実施症例の増加： レセプト情報・特定健診等情報(NDB)オープンデータを用いた全数調査

田村 寛¹⁾, 三宅 正裕¹⁾, 木戸 愛¹⁾, 平木 秀輔²⁾, 加藤 源太³⁾, 辻川 明孝¹⁾

¹⁾京都大学大学院医学研究科眼科学, ²⁾京都大学医学部附属病院医療情報企画部

³⁾京都大学医学部附属病院診療報酬センター

要 約

目的と方法：厚生労働省により公開されている、2014年度～2018年度のレセプト情報・特定健診等情報(NDB)オープンデータを用いて、白内障手術および眼内レンズ縫着術による保険請求の全数調査を行った。

結 果：年度ごとの眼内レンズ縫着術の請求件数は5年間で10,133件から13,898件まで37%増加し、全白内障手術に占める割合も0.72%から0.94%まで増加していた。外来での実施割合は、全白内障手術で50.6%から

57.0%への増加を示す一方、眼内レンズ縫着術では19.5%から20.4%への増加にとどまった。

結 論：最近5年間で眼内レンズ縫着術を要する症例が増加していた。(日眼会誌 125: 738-740, 2021)

キーワード：レセプト情報・特定健診等情報(NDB), 白内障手術, 眼内レンズ縫着術

Increasing Cases of Cataract Surgery with Intraocular Lens Suturing : a Study of All Cases Based on Open Data from the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB)

Hiroshi Tamura¹⁾, Masahiro Miyake¹⁾, Ai Kido¹⁾, Shusuke Hiragi²⁾
Genta Kato³⁾ and Akitaka Tsujikawa¹⁾

¹⁾Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine

²⁾Solutions Center for Health Insurance Claims, Kyoto University Hospital

³⁾Division of Medical Informatics, Administration, and Planning, Kyoto University Hospital

Abstract

Purpose and methods : We conducted a comprehensive study of insurance claims concerning cataract surgery and intraocular lens suturing from 2014 to 2018 based on open data from the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB), published by the Ministry of Health, Labour, and Welfare.

Results : During the 5-year period, the number of claims concerning intraocular lens suturing in-

creased by 37% from 10,133 to 13,898, and the percentage of total cataract surgeries increased from 0.72% to 0.94%. The percentage of outpatient operations increased for all cataract surgeries (from 50.6% to 57.0%); however, it did not change for intraocular lens suturing (from 19.5% to 20.4%).

Conclusion : In the last 5 years, the number of cases requiring intraocular lens suturing has increased.

連絡責任者：606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54 京都大学大学院医学研究科眼科学 田村 寛

(令和3年1月22日受付, 令和3年3月9日改訂受理) E-mail: htamura@kuhp.kyoto-u.ac.jp

Corresponding author: Hiroshi Tamura, M.D., Ph.D. Department of Ophthalmology and Visual Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, 54 Shogoin-Kawara-cho, Sakyo-ku, Kyoto-shi 606-8507, Japan

(Received January 22, 2021 and accepted in revised form March 9, 2021)

Nippon Ganka Gakkai Zasshi (J Jpn Ophthalmol Soc)
125 : 738-740, 2021.

Key words : National Database of Health Insurance
Claims and Specific Health Checkups of
Japan (NDB), Cataract surgery, Intra-
ocular lens suturing

I 緒 言

近年、眼内レンズ縫着術を要する症例が増加しているとされるが¹⁾、この増加を示す明確なエビデンスは不十分である。我が国でも、保険診療の請求時に発生するレセプト情報の解析への期待は高まっており、政策や研究への二次活用に向けた整備が重点化されている。複数の研究活用可能なレセプトデータが存在するが、国全体の診療実態を網羅的に分析できるものは厚生労働省が格納・管理しているレセプト情報・特定健診等情報(National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan : NDB)オープンデータに限られる。NDBは医療政策への活用から始まり、眼科も含めた研究での活用も促進されるようになってきている²⁾(加藤源太：レセプト情報・特定健診等データベースの利活用について—これまでの議論から—。Seagaia Meeting 2014, 宮崎市, 2014)。複数種類存在するNDBの中から、Web上で公開されているNDBオープンデータを用いて、日本における眼内レンズ縫着術の全数調査を行い、対象症例の推移を検討した。

II 対象と方法

厚生労働省が公開している2014年度～2018年度の全5回分のNDBオープンデータを活用し³⁾、年度ごとの白内障手術時(K282 水晶体再建術とA400 短期滞在手術等基本料3)保険請求状況ならびに、眼内レンズ縫着術(K282 水晶体再建術1のイ縫着レンズを挿入するもの)の全数調査を行った。また、各年度の入院と外来の手術の実施内訳についても、「医科入院」および「診断群分類包括評価(Diagnosis Procedure Combination : DPC)」レ

セプト分が入院に、「医科入院外」レセプト分が外来に分けて集計されていることを活用して検討した⁴⁾。経時的变化に関しては、Cochran-Armitage 傾向検定を用いて評価を加えた。本研究はヘルシンキ宣言に則り行われた研究である。

III 結 果

外来と入院分を合計した全白内障手術件数は2014年度の1,415,267件から2018年度の1,483,105件まで増加しており、2017年度には最大の1,485,167件が実施されていた(表)。眼内レンズ縫着術に関する請求件数は、2014年度の10,133件から2018年度の13,898件まで37%単調に増加しており、全白内障手術の中に占める割合でも0.72%から0.94%まで31%単調に増加していた(表)($p < 0.001$)。全体手術件数のうち、外来での実施割合は、全白内障手術で50.6%から57.0%への増加($p < 0.001$)を示す一方、眼内レンズ縫着術では19.5%から20.4%への増加にとどまった($p = 0.022$)。

IV 考 按

研究対象となった5年の間に、眼内レンズ縫着術は実数で37%の増加、全白内障術における内訳で31%の増加を認めた。眼内レンズ縫着術は、眼内レンズ脱臼症例、Zinn小帯が脆弱な症例、白内障手術時に広範囲な後囊破損を来した症例に用いられる。手術機器や技術の改善もあり後囊破損症例の増加は考えにくい一方、人口の高齢化の影響を受けて、眼内レンズ脱臼例や脆弱Zinn小帯例の増加が眼内レンズ縫着術の増加に寄与している可能性が示唆される。また、白内障手術全体では外来での実施への移行が進んでいるが、眼内レンズ縫着

表 2014年度～2018年度における全白内障手術と眼内レンズ縫着術の年度別算定件数の推移

年度	全白内障手術				眼内レンズ縫着術			
	外来	入院	合計	外来の割合 (%)	外来	入院	合計	外来の割合 (%)
2014*	—	—	1,415,267	—	—	—	10,133	—
2015	744,603	728,336	1,472,939	50.6	2,130	8,797	10,927	19.5
2016	757,337	700,062	1,457,399	52.0	2,314	9,442	11,756	19.7
2017	785,365	699,802	1,485,167	52.9	2,558	9,824	12,382	20.7
2018	844,658	638,447	1,483,105	57.0	2,840	11,058	13,898	20.4

全白内障手術：「K282 水晶体再建術とA400 短期滞在手術等基本料3」を算定した手術。

眼内レンズ縫着術：「K282 水晶体再建術1のイ縫着レンズを挿入するもの」を算定した手術。

外来：「医科入院外」レセプト分。

入院：「医科入院」および「診断群分類包括評価(Diagnosis Procedure Combination : DPC)」レセプト分。

*：2014年度分の外来と入院の内訳は非公表。

術に関しては入院での実施が主なままで外来への移行は顕著ではなかった。この結果は、手術時の負荷や術後観察の必要性の大きさを反映していることが考えられる。

NDB オープンデータを用いることで、眼内レンズ縫着術の保険算定状況の全数調査が実施可能であり、2014 年度～2018 年度と限られた期間においても、眼内レンズ縫着術件数および全白内障手術中の割合の双方において単調に増加していることが明らかになった。今後も、進展する人口の高齢化の影響から眼内レンズ縫着術を要する症例の増加が懸念され、その対策を検討するにあたり、本研究結果が重要な基礎データとなることが期待される。

利益相反：田村 寛(カテゴリー F：ファインデックス)，三宅正裕(カテゴリー F：ノバルティスファーマ)，辻川明孝(カテゴリー F：キヤノン，ファインデックス，参天製薬)

文 献

- 1) 厚東隆志：研究実施計画書「眼内レンズ強膜内固定術についての検討」．<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/asset/pdf/H30-168.pdf>. Accessed 2021 年 1 月 9 日.
- 2) Kido A, Tamura H, Ikeda HO, Miyake M, Hiragi S, Tsujikawa A : Nationwide incidence of central retinal artery occlusion in Japan : an exploratory descriptive study using the National Database of Health Insurance Claims(2011-2015). BMJ Open 10 : e041104, 2020.
- 3) 厚生労働省：NDB オープンデータ．<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177182.html>. Accessed 2021 年 1 月 9 日.
- 4) 厚生労働省保険局医療介護連携政策課保険データ企画室：第 5 回 NDB オープンデータ【解説編】令和 2 年 12 月．<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000539646.pdf>. Accessed 2021 年 2 月 24 日.